

今の特集より

令和4年10月27日～11月29日

※【 】内の数字は分類番号です。

※ほかにも特集に関する本を用意しています。気軽にお尋ねください。

大特集

～家族を想う～

核家族、少子化、晩婚化という言葉が多く耳にする現在、家族の形は多種多様になりました。いろんな家族の話を読んでもみると、自分の家族の形が見えてくるかもしれません。この機会に家族を想ってみませんか。

「母親からの小包はなぜこんなにダサイのか」

原田ひ香／著 中央公論新社
2021年 【Nハ】

「家庭という学校」

外山滋比古／著 筑摩書房 2016年
【379.9】

「されど家族、あらがえど家族、だから家族は」

山田佳奈／著 双葉社 2020年
【Nヤ】

「なんで家族を続けるの？」

内田也哉子、中野信子／著
文藝春秋 2021年 【367.3】



「架空の犬と嘘をつく猫」

寺地はるな／著 中央公論新社
2017年 【Nテ】

羽猫家は6人家族。変っているのは苗字だけではなく、みんなそれぞれ嘘をつくこと。まともな大人が一人もない、そんな家で育った主人公、羽猫山吹は家族のすべてを受け入れて大人になっていく。山吹が大人になり、それぞれの嘘がほどかれた時、本当の家族の姿が見えてくる。



「家族と話し合いをしていますか？」

斉田英子／著 PHP研究所
2021年 【367.3】



「やさしい猫」

中島京子／著
中央公論新社 2021年 【Nナ】

「家族ががんになりました」

大西秀樹／著 法研 2016年 【494.5】

「二人の親を見送って」

岸本葉子／著 中央公論新社
2015年 【914キ】

小特集

～映像化された本～



映像化された作品を集めてみました。

「線は、僕を描く」

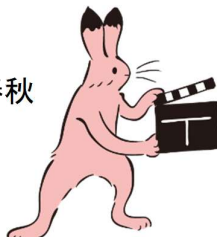
砥上裕将／著 講談社 2019年 【Nト】

「母性」

湊かなえ／著 新潮社 2012年 【Nミ】

「ある男」

平野啓一郎／著 文藝春秋
2018年 【Nヒ】



「元彼の遺言状」

新川帆立／著 宝島社 2021年 【Nシ】

「シャイロックの子供たち」

池井戸潤／著 文藝春秋 2006年 【Nイ】

「大事なことほど小声でささやく」

森沢明夫／著 幻冬舎 2013年 【Nモ】

「向田理髪店」

奥田英朗／著 光文社 2016年 【Nオ】

「拾われた男」

松尾諭／著 文藝春秋
2020年 【778.2】

